

**ライブ配信サービス対応の“PowerShot G7 X Mark III”を発売  
4K 動画や縦位置動画への対応など充実した動画性能**

キヤノンは、プレミアムコンパクトカメラ G シリーズの新製品として、ライブ配信サービスに対応した“PowerShot G7 X Mark III”を2019年8月上旬より発売します。



PowerShot G7 X Mark III (ブラック/シルバー)

“PowerShot G7 X Mark III”は、従来機種「PowerShot G7 X Mark II」(2016年2月発売)をリニューアルし、新たに4K動画撮影機能を搭載するなど、手軽に動画を楽しみたいユーザーに対応します。

**■ 積層型 CMOS センサーと DIGIC 8 の組み合わせにより動画と高速連写の性能が向上**

1.0 型・有効画素数約 2010 万画素<sup>※1</sup>の積層型 CMOS センサーをキヤノンとして初めて採用し、映像エンジン DIGIC 8 との組み合わせにより、動画と高速連写の性能が向上しました。キヤノンのコンパクトデジタルカメラで初めてクロップのない4K動画撮影<sup>※2</sup>を実現しており<sup>※3</sup>、レンズの画角を生かして風景など広角で撮影したいシーンで活用できます。また、最大約 30.0 コマ/秒<sup>※4</sup>の高速連写ができるため、撮影者の狙った大切な瞬間を撮影できます。さらに、「縦位置情報の付加」機能により、カメラを縦位置で撮影した動画でも、スマートフォンや PC で、自動的に縦位置で再生できます<sup>※5</sup>。また、自分撮り動画も液晶モニター上の動画ボタンをタッチするだけで撮影できます。

**■ ライブ配信サービスによりカメラ本体のみで簡単に YouTube でのライブ配信が可能**

動画をインターネット上に送信するための配信ユニットを用意しなくても、Wi-Fi に接続することにより、カメラ本体のみで YouTube でのライブ配信ができます<sup>※6,7</sup>。ポケット Wi-Fi やテザリングなどを用いることで、外出先でもリアルタイムに配信することができます。

**■ 大口径レンズによる明るく豊かな表現力**

大口径で明るい光学 4.2 倍ズームレンズ (24-100mm 相当<sup>※8</sup>/F1.8-F2.8) により、暗いシーンでもブレやノイズを抑えて、高画質に描写することが可能です。9 枚羽根の虹彩絞りにより、美しいボケ味や夜景のきれいな<sup>こぼれ</sup>光芒を表現できます。

製品名	参考価格	発売日
PowerShot G7 X Mark III	オープン価格	2019年8月上旬

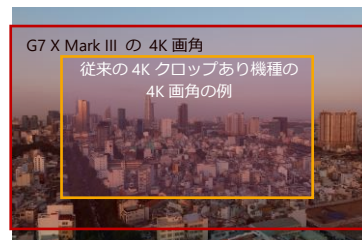
※1 総画素数は約 2090 万画素。  
 ※2 4K(30p/25p)、自動水平補正 OFF、手ブレ補正設定 OFF 時。ハイフレームレート動画の場合、フル HD (120p/100p)。  
 ※3 同時発表となる PowerShot G5 X Mark II でも同様に実現。  
 ※4 RAW バーストモード時、AF 固定で最大約 70 コマ (プリ撮影を含む) 撮影可能。  
 ※5 デバイス側のアプリケーションの仕様によって制限が起きる場合があります。カメラ上での縦位置再生はできません。  
 ※6 事前に CANON IMAGE GATEWAY への登録が必要。必要に応じて、公開先やイベントをスマートフォンや PC から事前設定しておく必要があります。  
 ※7 YouTube ライブ配信窓口は YouTube が定める「ライブ配信に関する制限」が設けてあり、モバイルデバイスで YouTube ライブを使用する場合には、1,000 人以上のチャンネル登録者数が資格要件となっております。PowerShot G7 X Mark III を使った YouTube ライブ配信に関しましても、上記の要件が適用されます。最新の要件については下記 URL をご参照ください。 <https://support.google.com/youtube/answer/2853834?hl=jp> (2019/8/9 追記) YouTube でのライブ配信は、予告なく変更・停止・終了することがあります。YouTube でのライブ配信を含め、第三者が提供するサービスについて、キヤノンは、かかる責任も負いません。あらかじめご了承ください。  
 ※8 35mm フィルム換算。

● 一般の方のお問い合わせ先： キヤノンお客様相談センター 050-555-90005  
 ● コンパクトデジタルカメラホームページ： [canon.jp/cdc](http://canon.jp/cdc)

## <主な特長>

### 1. 積層型 CMOS センサーと DIGIC 8 の組み合わせにより動画と高速連写性能の向上

- ・1.0 型・有効画素数約 2100 万画素の積層型 CMOS センサーをキヤノンで初めて採用。映像エンジン DIGIC 8 との組み合わせにより、動画と高速連写の性能が向上。
- ・キヤノンのコンパクトデジタルカメラで初めてクロップのない 4K 動画撮影を実現。レンズの画角を生かして風景など広角で撮影したいシーンで活用が可能。
- ・4K で撮影した動画は、カメラの操作で静止画として切り出すことが可能<sup>※1</sup>。これにより、4K 動画で撮影し、後から静止画を切り出して活用することもでき<sup>※2</sup>、大切な瞬間を動画と静止画の両方で気軽に残すことが可能。
- ・「縦位置情報の付加」機能により、カメラを縦位置で撮影した動画でも、スマートフォンや PC で自動的に縦位置で再生することが可能。
- ・液晶上に表示される動画撮影ボタンをタッチするだけで簡単に自分撮り動画を撮影可能。
- ・最大約 30.0 コマ/秒の高速連写で RAW<sup>※3</sup> 画像を連写できる「RAW バーストモード」を搭載。
- ・RAW バーストモードではシャッター半押し状態で撮影を開始し、シャッター全押しの最大約 0.5 秒前から記録できる「プリ撮影」が可能。
- ・ドライブモードの連写でも AF 固定で最大約 20.0 コマ/秒、AF 追従でも最大約 8.3 コマ/秒の連続撮影が可能。
- ・明るさやコントラストを自然な印象に自動補正する「オートライティングオプティマイザ」を搭載し、従来よりも白トビや黒つぶれの少ない階調豊かな写真が撮影可能。
- ・DIGIC 8 の搭載により、高感度撮影時の良好なノイズ耐性や解像感を実現し、最高 ISO 感度 12800（拡張時：25600 相当）で静止画の撮影が可能。



クロップあり/なしの違い

※1 動画の1コマを静止画として保存するため、通常の静止画と同等の画質にはなりません。静止画のアスペクト比は16:9です。  
※2 切り出された静止画をカメラでトリミングできません。フルHD、HD動画のフレーム切り出しはできません。  
※3 フォーマットは「.CR3」。

### 2. ライブ配信サービスによりカメラ本体のみで簡単に YouTube でのライブ配信が可能

- ・スマートフォンや PC などから公開範囲やイベントを事前に設定していれば、Wi-Fi に接続するだけで、配信ユニットを用意することなくカメラ本体のみで YouTube でのライブ配信が可能<sup>※</sup>。
- ・ポケット Wi-Fi やテザリングを用いることで、外出先からでも撮影した動画をリアルタイムで配信。
- ・「いますぐ配信」と「イベント配信」を選択できると同時に、公開範囲の確認も可能。
- ・プレビュー配信にも対応しており、配信する映像を非公開で事前に確認することも可能。
- ・内蔵マイクに加え、外付けマイクが装着でき、音にこだわるユーザーのニーズに対応。
- ・開発中のトライポッドグリップ (HG100-TBR) を用いると、自撮りを含めた動画撮影シーンが拡大。このグリップは、米国で開催される展示会 VidCon (2019 年 7 月 10 日～7 月 13 日) などで、順次参考出品する予定。



開発中のトライポッドグリップ  
(別売りの外付けマイク装着時)

※ ライブ配信では、フルHD(30p/25p)の動画データが YouTube へ配信されます。カメラに動画は記録されません。

### 3. 大口径レンズによる明るく豊かな表現力

- ・光学 4.2 倍ズームレンズ (24-100mm/F1.8-F2.8) により、幅広い画角で暗いシーンでもブレやノイズを抑えて、高画質に描写することが可能。
- ・9 枚羽根の虹彩絞りにより美しいボケ味や夜景のきれいな<sup>こうぼう</sup>光芒を表現可能。

## 4. コンパクトボディに充実した機能を搭載

- ・グリップのホールド性を確保しながらも従来機種より厚みを約 0.8mm 削減し、約 105.0mm（幅）×約 60.9mm（高さ）×約 41.4 mm（奥行き）のコンパクトボディと従来機種より 15g 軽い約 304g<sup>\*</sup>を実現。
- ・液晶モニターは、約 104 万ドットのチルト式タッチパネルを採用。上方向に約 180°、下方向に約 45°可動し、ハイアングル、ローアングルでの撮影や自分撮りをサポート。
- ・EOS M シリーズで好評の「クリエイティブアシスト」をキヤノンのコンパクトデジタルカメラとして初搭載。平易な言葉で、簡単に画づくりを楽しむことが可能。
- ・パノラマショットモードにより、連写した写真をカメラ内で自動合成し、一枚のパノラマ写真を作成可能。
- ・撮影回数やピントのステップ幅を任意に変更して撮影できるフォーカスブラケットを搭載。深度合成機能のあるキヤノン製ソフトウェア Digital Photo Professional などを使用すると、撮影した画像から広い範囲にピントの合った画像を生成することが可能。

※ 質量はバッテリーバック・メモリーカード含む（CIPA 準拠）。

## 5. Wi-Fi/Bluetooth®など撮影後の楽しみを広げるネットワーク連携

- ・スマートフォン（スマホ）などの携帯端末への接続手段として、Wi-Fi に加え、Bluetooth 接続にも対応<sup>\*1,2</sup>。初回接続時にペアリング設定をすることで、カメラとスマホ使用時に Bluetooth で自動的に接続。また、画像転送時は、Bluetooth から Wi-Fi へ自動的に切り替わるため、カメラ側での手動の Wi-Fi 接続操作が不要となり、簡単に画像送信をすることが可能。
- ・メニュー設定画面の「無線通信設定」のタブにより、他の撮影設定と同様に、簡単な操作で接続設定が可能。
- ・Wi-Fi に接続されているスマホに撮影と同時に画像を自動送信できる「撮影時画像自動送信」を搭載<sup>\*2,3</sup>。また、カメラ内データの閲覧や転送において、4K 動画の転送にも対応<sup>\*4</sup>。カメラ内の 4K 動画をフル HD に変換して送信することで、4K 動画のまま転送するより早く、SNS やスマホでの再生で汎用性がある動画として取り込むことも可能。

※1 Bluetooth Low Energy 技術に対応。以降の表記においては Bluetooth と記載。Bluetooth 機能の動作条件は、接続機器が iOS/Android:Bluetooth 4.0 以上を搭載するデバイスです。ただし、上記の動作条件を満たす機器であっても、機種によっては、Bluetooth 接続ができない場合があります。Bluetooth 接続ができない場合、一部の位置情報付与の機能が使用できません。Bluetooth 接続ができない場合でも、機器と Wi-Fi 接続による画像の転送、リモート操作は可能です。また、Bluetooth 接続には、事前にカメラと携帯端末をペアリングさせておく必要があります。

※2 カメラと携帯端末の Wi-Fi や Bluetooth での接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要。「Google Play」「App Store」より無料でダウンロードが可能。

※3 オリジナルデータ（JPEG）やリサイズした縮小画像が送信可能です。

※4 4K 動画のまま転送することも可能ですが、スマホによっては再生できない場合があります。

## <コンパクトデジタルカメラの市場動向>

2018 年の世界のカメラ市場におけるコンパクトデジタルカメラの販売台数は、約 1,050 万台となりました。2019 年は、約 850 万台を見込んでいます。（キヤノン調べ）

## <主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

\* Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™および Wi-Fi Protected Setup™は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

\* App Store は、Apple Inc.の商標です。

\* Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

\* その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。